



### 2008年度 前期公開講座募集要項

講座名(講師名)	開設予定日/時間	対象(定員)
カウンセリング講座: 講義と演習 (渡久地 政順)	4/18~6/20 (10回) 毎週 金曜日 19:00-20:30	中級修了者 経験者 (30名)
思春期との向き合い方・付き合い方 ~子どもの発達の節々での親の役割~ (垣花 鷹志)	4/17~7/24 (15回) 毎週 木曜日 19:00-20:30	一般・学生 (30人)
死生学を学ぶ (近藤 功行)	4/16~6/18 (10回) 毎週水曜 18:30-20:00	一般社会人 (30名)
英文簿記入門 (鶴飼 経世)	4/22~5/30 (10回) 毎週火・金曜日 19:00-20:30	一般社会人・学生 (20名)
Communicative Childcare English の基礎学習 -Language Experience Approach を学ぶ- (山里 米子)	4/15~7/1 (10回) 毎週火曜日 19:00-20:30	保育士・幼稚園教諭・学校教職 員・児童英語講師・一般社会人・ 学生(20名)
琉球の歴史 (深澤 秋人)	4/17~6/19 (10回) 毎週木曜日 19:00-20:30	一般・学生 (12名以上)
教会音楽合唱講座 (神谷 智子)	4/18~6/20 (10回) 毎週金曜日 19:00-20:30	一般社会人・学生 (15名)
Strategies for a Healthy Okinawa Longevity and Economic Prosperity in 21st Century (糸数 デビット)	4/14~6/30 (10回) 毎週月曜日 19:00-20:30	一般社会人・学生 (12名以上)※英語での講義
ハンブル入門 (金 永秀)	4/14~6/30 (10回) 毎週月曜日 19:00-20:30	ハンブルに興味のある方 (12名以上)

受付期間 : 3/13(月)~4/4(金)午後5時まで ※時間 09:00~17:15 (土日除く)  
 受講費用 : <15回>一般9,200円/割引4,700円 <10回>一般6,200円/割引3,200円  
 ◎本学関係者・在学・卒業生、西原町在住者・勤務者、学生の方は割引あり。  
 ◎一旦納入された受講料は払い戻しできません。  
 問合わせ : 電話番号 098-946-1238 (総務課)



沖縄キリスト教学院大学  
沖縄キリスト教短期大学

# 学報 第54号

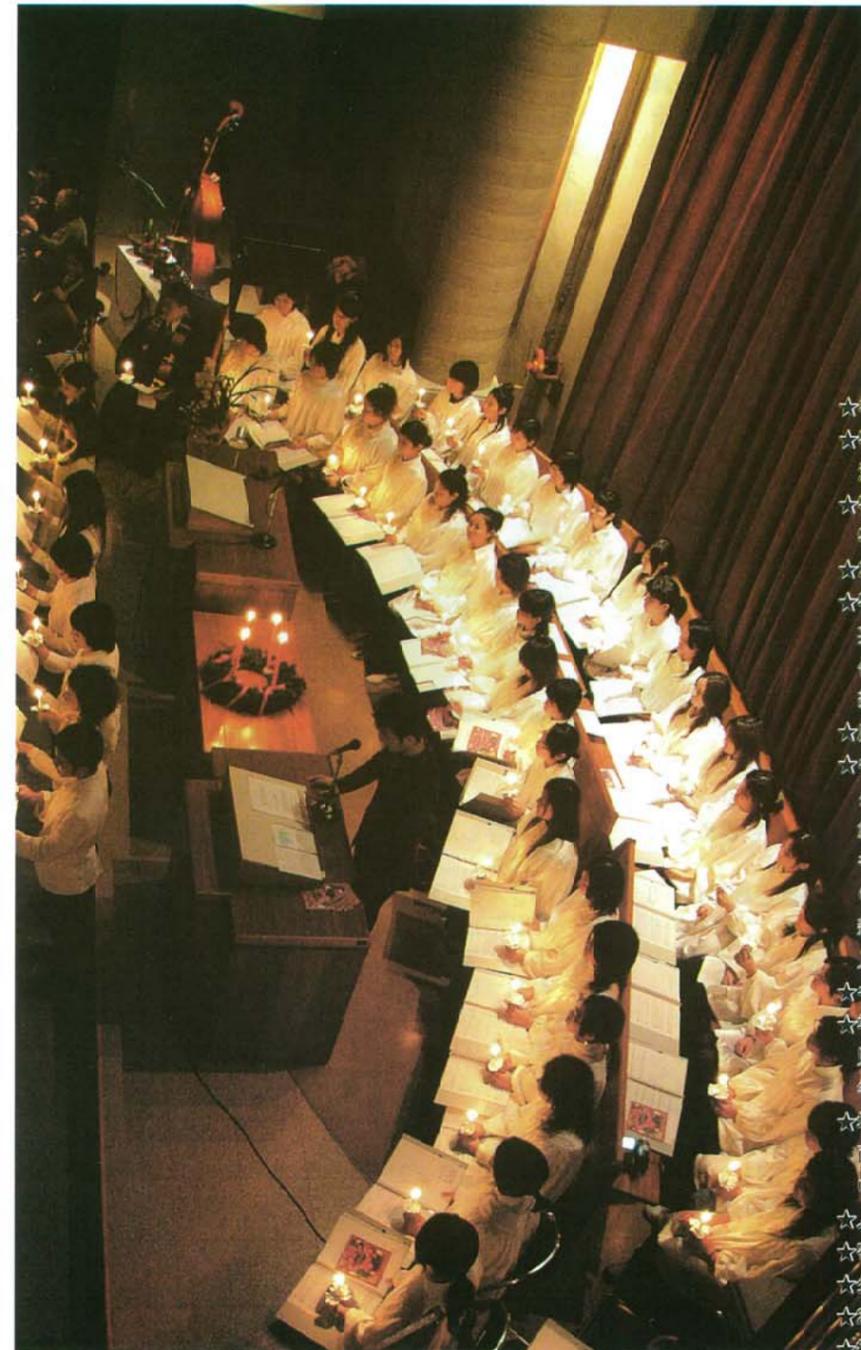
2008年3月12日発行

沖縄県西原町字翁長777  
☎(098)946-4161 098)946-1241  
編集・発行  
沖縄キリスト教学院企画推進課  
URL http://www.cocj.ac.jp



## 記事内容

- ☆学長・次期学長メッセージ ..... 2
- ☆特集1  
沖縄キリスト教学院大学大学院開学 ..... 3~4
- ☆特集2  
特別補助 採択プログラムの紹介(英語科) ... 5~7
- ☆2007年度採用教員紹介 ..... 8~9
- ☆特色ある授業紹介  
英語コミュニケーション学科 ..... 9
- 保育科 ..... 9
- 総合教育系 ..... 10
- ☆恋えます!高校生 ..... 11~12
- ☆キャンパスニュース  
クリスマス礼拝と祝会(宗教部) ..... 13
- 創立50周年記念に向けて ..... 13
- キリ学祭 ..... 14
- OCU ラジオ番組 ..... 14
- 新校舎設立 ..... 14
- 入賞サークル・学生の紹介 ..... 15
- ☆キャリア開発課 ..... 16
- ☆学生の活動  
児童文化研究サークル ..... 17
- 学内NGO「ONE LOVE」 ..... 18
- ☆地域交流  
西原町民文化講座 ..... 18
- 中学生職場体験学習受入 ..... 18
- ☆入事一覧 ..... 19
- ☆寄付感謝報告 ..... 19
- ☆公開講座募集 ..... 20
- ☆2006年度決算報告 ..... 20
- ☆編集後記 ..... 20



クリスマス礼拝(仲里朝章記念チャペル)

## 2006年度決算報告

2006年4月1日から  
2007年3月31日まで

### 資金収支計算書

(単位:円)

資金支出の部		資金収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	602,953,777	学生納付金収入	773,348,000
教育研究経費支出	185,491,196	手数料収入	16,356,200
管理経費支出	41,482,766	寄付金収入	20,087,000
借入金等利息支出	6,546,187	補助金収入	168,069,351
借入金等返済支出	41,650,000	資産運用収入	4,521,844
施設関係支出	1,436,893	資産売却収入	20,000,000
設備関係支出	17,886,173	事業収入	3,999,036
資産運用支出	135,000,723	雑収入	38,791,075
その他の支出	34,349,851	前受金収入	391,588,000
予備費		その他の収入	132,876,668
資金支出調整勘定	△11,187,286	資金収入調整勘定	△387,544,250
次年度繰越支払資金	925,848,485	前年度繰越支払資金	799,385,841
支出の部合計	1,981,458,765	収入の部合計	1,981,458,765

### 貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	3,025,226,380	固定負債	187,823,481
有形固定資産	2,623,209,004	流動負債	451,982,405
土地	955,981,208	負債の部合計	639,785,886
建物	1,069,396,404	第1号 基本金	3,339,269,380
その他の有形固定資産	657,831,392	第2号 基本金	18,372,179
その他の固定資産	402,017,376	第3号 基本金	30,000,000
流動資産	927,441,404	第4号 基本金	67,000,000
現金預金	925,848,485	基本金の部合計	3,454,641,559
その他の流動資産	1,592,919	翌年度繰越消費支出超過額	△141,759,661
資産の部合計	3,952,667,784	負債の部、基本金の部及 び消費収支差額の部合計	3,952,667,784

### 消費収支計算書

(単位:円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	602,169,996	学生納付金	773,348,000
教育研究経費	251,854,009	手数料	16,356,200
管理経費	47,231,295	寄付金	20,520,191
借入金等利息	6,546,187	補助金	168,069,351
予備費		資産運用収入	4,521,844
消費支出の部合計	907,801,487	事業収入	3,999,036
当年度消費収入超過額	68,502,645	雑収入	38,791,075
前年度繰越消費支出超過額	210,262,306	帰属収入合計	1,025,699,697
基本金取崩額	0	基本金組入額	△49,395,565
翌年度繰越消費支出超過額	141,759,661	消費収入の部合計	976,304,132

2006年度決算について報告いたします。

計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。



今年度、事務局職員になり母校に戻ってきました。学報を担当させて頂き、本学の良さを改めて感じ、また私の学生時代にはなかった新しい発見もありました。取材を通して、本学を知れば知るほど、「母校が一番だ!」と確信しました。これからも本学の特色や学生の活動、そして卒業生の活躍を学内外に発信できるような「学報」にしたいです。学報作成にあたり、ご協力頂いた方々、本当に有り難うございました。(大城)

# 『学長と次期学長メッセージ』

## 学長退任に当たって

沖縄キリスト教学院大学  
沖縄キリスト教短期大学  
学長 神山 繁實

今年、沖縄キリスト教学院創設50周年及び4年制大学の完成年度を迎えた記念すべき年である。四年制立ち上げには、過去10年余にわたる苦闘の歴史があった。50周年開学予定に際し、250名の入学定員を抱え続けることはできないとの判断から、開設年度を繰り上げ、英語系を先に立ち上げるべく、設置作業を開始した。当初、英語系四年制完成年度時に保育系学部を立ち上げる予定であったが、財政事情で遅れた。昨年、理事会は、社会の変動に応じてそれに対応できる保育系の立ち上げを決議した。保育系学部ないし大学設置は、当初から社会的に公約をして卒業生をはじめ、教会、保育関係、地域社会、企業から期待を込めて献金をいただいた。本学院はその期待に応える責任を負っているのである。

もう一つのエポック・メイキングは、大学院を2008年4月に開学することである。この大学院設置は、英コミ学科に接続する課程で、MAの学位授与により大学案内に示されている夢のある出口を保証することができる。この意味で、大学院設置は必然性を有するものである。残された課題は、保育系の四年制学部を立ち上げる周知な事業計画を練り上げることである。

短大・英コミでは学科の再編を含め、大学改革を推進するための短中期計画策定を進めているが、理事会の長期計画における新しい展開の策定も求められるところである。

最後に、私のやり残したことは、設置の趣旨に、3年次に海外で主に英語圏においてであるが、ジュニア・イヤー・アブロードを正規の学生に半年ないし1年の留学を課していたが、事実上、力量不足でなし得なかった。その後、英語力の数値目標を立てる提案もなされたが、具体案は近く提案される予定であるが、幸いなことに英語学習意欲を高めるモチベーションは用意されている。もう一つは、ビジネス系と国際サービス系の充実が求められる。本学の特色を出すためには、建学の精神とあいまって英コミ学科において謳われている内容の充実が求められ、全職員が一致して学生に対するサポート体制の充実を図り、「設置の趣旨」の貫徹をお願いしたい。それができて初めて新しいことも意味を持つようになるからである。理事会は、学内の圧倒的支持を得たスラッシャー氏を次期学長に選任したが、これまでとは違った新しい大学作りをするとの公約に大きな期待を寄せているのは私ひとりではない。シャローム！

## 「伝統と未来への展望」

沖縄キリスト教学院大学  
人文学部長 Randolph H. Thrasher

この度、沖縄キリスト教学院第七代学長に選出されたことを大変光栄に存じます。これも、沖縄キリスト教学院大学、ならびに沖縄キリスト教短期大学の教職員の皆様からの大きな支持のおかげです。皆さまからの絶大な支持があるからこそ、今後四年間、本学や全国の高等教育機関が直面している様々な問題に乗り越えることができると確信しています。本学が迎える次の50年も更り多いものとなるよう、共に歩みましょう。

沖縄キリスト教短期大学は、2007年に50周年を迎えました。本学と私との最初の関わりは、50年前の学院設立時ではありませんが、その2年後、初代学長仲里朝章先生に迎えられたことに遡ります。私は2年間、前田伊都子先生の傍らで教鞭を執りました。前田先生は、本学の教育環境の創設に多大な動きをなさいました。



私は当初、日本で教育に携わるといふ人生を考えてはいたしませんでした。彼らとの出会いと、教鞭を執った経験が私の人生をまったく違うものに変えたのです。自分自身がさらに教育を受ける必要があると感じた私はアメリカに戻り、ミシガン大学で英語学の修士号、そして言語学で博士号を取得しました。その後

14年間関西学院大学で教鞭を執った後、22年間東京の国際基督教大学で教育・研究に携わり、2002年に本学院に戻って参りました。2004年に開学した沖縄キリスト教学院大学では、4年間人文学部長として務めて参りました。そして今回、学長という大きな責務を与えられました。

仲里先生は、キリスト教の学校を作りたいのではなく、イエス・キリストが中心におられる学校を作りたいのだとおっしゃっていました。私はこれこそが本学の精神なのだと信じておりますし、これを守るための努力は惜しまないつもりです。そしてできればこの精神をさらに強化したいのです。これからいっそう激しさを増していく日本の高等教育機関の競争において生き残るためには、カリキュラムの見直しや新規プログラムの検討、これまでの作業に対する新しい手段を考えることも必要です。しかしながら、これら新たな挑戦を現実のものとするためには、本学が健全な財政基盤の上に立っていない限りなりません。本学の卒業生や本学に親しい方々には、沖縄の社会において本学が貢献できることを明確にするお手伝いと、新規プログラムの開発や既存プログラムの強化に関する助言と支援を、なにとぞお願いしたいと存じます。

## 特集1

# 『沖縄キリスト教学院大学大学院開学』

## 大学院設置認可の記者会見が行われました。



12月3日付け文部科学省の大学院設置の認可を受け、2008年4月からの異文化コミュニケーション学研究所修士課程（定員5名）新設を、12月14日、沖縄県庁記者クラブにて記者会見を行いました。

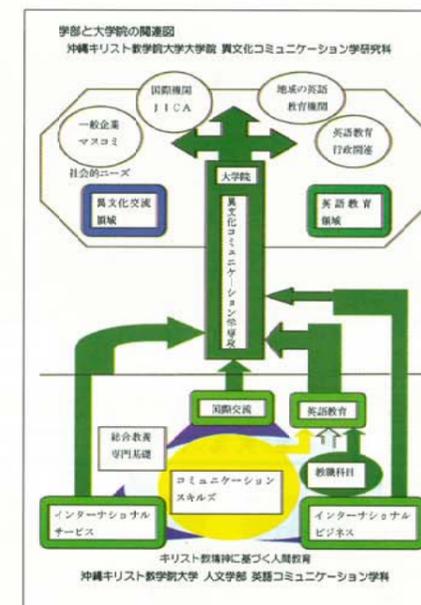
本学院から、Thrasher人文学部長、伊佐英語コミュニケーション学科長、大城理事長、神山学長、仲門常務理事が出席しました。

## 研究科長メッセージ

沖縄キリスト教学院大学  
人文学部長 Randolph H. Thrasher

When OCU began in 2004 it was realized that some of our students would need graduate degrees in order to follow the careers our school was preparing them for. This was particularly true for those students in the International Service and Intercultural Exchange areas of concentration. And recent changes in the licensing of junior and senior high school teachers has made a number of in-service teachers and students studying to become teachers realize that graduate work in English language teaching is something they need to fully pursue their professional goals. To meet these needs, OCU submitted an application to The Ministry of Education and they agreed to let us establish the OCU Graduate School of Intercultural Communication. The new school will accept its first students on April 1, 2008.

Roughly half of these students will work with Professor Isa in the Intercultural Communication Program and the rest will work with me in English Language Education. Three are entering our graduate school directly from college and two are already working. One is an international student. This diversity is important because graduate students learn from their fellow students as well as from their professors. The twin pillars of our program will also facilitate the broadening of our students' outlook and skills. Those majoring English Language Education will have the



advantage of also taking intercultural communication courses and this study is bound to give them a wider, international outlook. Those majoring in Intercultural Communication will be able to take courses concerned with teaching and learning foreign languages and this knowledge should enable them to be more useful in their overseas postings.

### 日 訳

本学が2004年に開学した時、将来的には大学院の設置が必要であることは認識されておりました。国連等の公的機関で就職を望む場合、修士号が必要条件となるからです。また、近年の中学校や高等学校の教員免許法改定に伴い、多くの現職教員や教職を希望する学生が大学院における英語教育研究の必要性を感じているからです。そのニーズに応えるべく、本学は昨年、文部科学省に大学院設置を申請し、その設置が認可されました。そして、本学大学院は2008年4月1日をもって第1期生を迎える運びとなっています。

本学の大学院生は「異文化交流領域」、あるいは「英語教育領域」のいずれかを専攻することになります。「異文化交流領域」では伊佐先生が、「英語教育領域」は私が担当します。

本学大学院の入学予定者は5名で、現役学生が3名で社会人が2名です。この社会人の中の、一人は外国人の学生です。この多様性の中で、院生は本学大学院に携わる教員から学ぶだけでなく、院生同士からも学びあえるのです。「異文化交流領域」と「英語教育領域」の二本柱は、院生の視野を広げ、技量を高めることにもつながります。「英語教育領域」を専攻する院生でも「異文化交流領域」の科目を受講することが可能であり、その分野を学ぶことで幅広く、国際的な視野を持つことに至るはず。「異文化交流領域」を専攻する院生においても、英語教授法と関連する科目を履修することが可能であり、そこで得られた知見が外国で職を得ることになった際にはとても役立つことでしょう。

## 「異文化コミュニケーション学」研究科の特色と魅力



### 「異文化交流」領域の紹介

沖縄キリスト教大学院大学  
教授 伊佐 雅子

異文化に対する柔軟性と問題解決能力の育成

本大学院の異文化交流領域では、人間文化を本質的に理解し、多彩な国際交流能力を身につけた高度専門職業人および研究者を養成します。主に、日本人の異文化接触をめぐる諸問題を研究します。まず、最初に、異文化コミュニケーションの理論と、その応用力を身につけるために、『異文化コミュニケーション学特論Ⅰ・Ⅱ』、『比較人文学特論』の授業科目を配置しています。次に、積極的な国際交流を行うためには、自分の文化（沖縄）を深く理解するとともに、アジアやアメリカの歴史・文化についての知識も必要とされるので、『表象文化学特論』、『Okinawan Studies』、『American Studies』などの科目を配置しています。また、この領域では将来、ビジネス・国際機関・非営利団体などで活躍する人たちのために、『国際開発特論』、『国際ボランティア学特論』などの科目を設置し、海外・国内「インターンシップ」を通して、実践を理論化し、理論を実践に向けて構築・編成する能力を育成します。



### 「英語教育」領域の紹介

沖縄キリスト教大学院大学  
教授 仲地 弘善

理論から実践への試み

本大学院の英語教育領域には、これまで日本国内のどの大学院でも実施されていない英語教育研究についての2つの試みがなされています。

まず、英語教育と異文化交流を連結させていることです。英語教育の場に異文化コミュニケーションの理論を取り入れて英語教育の実践的側面を広げているのです。『English Rhetoric』『同時通訳・逐次通訳実践』及び『インターンシップ』の授業科目など、英語教育の実践力を強化する科目を配置し、新しい英語教育の理論や研究成果の後方支援をしています。

もう1つの特色は、英語教育領域の修士論文指導教授が英語圏からの外国人であることです。『English Rhetoric』や『国際理解教育』の担当教員も英語圏からの外国人です。その分野の専門性を直接英米の研究者から学べると同時に、日本に居ながらにして英語圏に居ると同様な環境で英語力を磨き上げることができます。

### 履修モデル

研究領域	異文化交流		英語教育	
	モデル 1	モデル 2	モデル 3	モデル 4
専攻必修 3科目 6単位		キリスト教平和学特論 (1・前) 異文化コミュニケーション学特論Ⅰ (1・前) 英語教育学特論Ⅰ (1・前)		
領域必修 3科目 6単位	比較人文学特論 (1・前) 表象文化学特論 (1・後) 異文化コミュニケーション学特論Ⅱ (1・後)		英語教授法特論 (1・前) 英米文学特論 (1・後) 英語教育学特論Ⅱ (1・後)	
授業科目 選択必修 5科目 10単位	国際関係特論 (1・前) 社会言語学特論 (1・前) Asian Studies (1・後) 国際ボランティア学特論 (1・後) 国際開発特論 (1・後) 調査研究法特論 (1・後)	国際理解教育特論 (1・前) American Studies (1・後) 国際ボランティア学特論 (1・後) 同時通訳・逐次通訳実践 (1・後) 調査研究法特論 (1・後) 非言語コミュニケーション特論 (1・後)	△国際理解教育特論 (1・前) △Okinawan Studies (1・前) △社会言語学特論 (1・前) OEnglish Rhetoric (1・後) 調査研究法特論 (1・後)	△国際理解教育特論 (1・前) △Okinawan Studies (1・前) OEnglish Rhetoric (1・後) 国際ボランティア学特論 (1・後) △同時通訳・逐次通訳実践 (1・後) 調査研究法特論 (1・後)
	インターンシップ (2・前) キリスト教特論 (2・後)	インターンシップ (2・前) 死生学特論 (2・後)	△比較文学特論 (2・前) 健康科学特論 (2・前) キリスト教特論 (2・後)	インターンシップ (2・前) キリスト教特論 (2・後)
論文指導 2科目 8単位	異文化コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱ (2・前/後)		英語教育学特別演習Ⅰ・Ⅱ (2・前/後)	
期待される進路	国内外の国際機関、NPO、NGO、JICA、マスコミ 国内外の大学院博士課程へ	県や市町村の国際交流窓口 一般企業 マスコミ、通訳・翻訳	中学校・高校の英語教員 国内外の大学院博士課程へ	中学校・高校の英語教員、通訳・翻訳 国内の教育機関や一般企業 国際交流団体

<注> 選択必修科目において、○印の付いた科目は教職課程専修免許における必修科目、△印は選択必修科目 (2科目 4単位) を示す。

## 特集2 『私立大学等経常費補助金(特別補助)採択プログラムの紹介』

※このプログラムは国より評価され、私立大学等経常費補助金特別補助として、補助金をいただいています。

### 「コミュニケーション能力向上のための総合的アプローチ」(英語科)

グローバル化の時代である現在、本学英語科では、学生のコミュニケーション能力を総合的に養うカリキュラムを徹底している。それは、フェイス・トゥ・フェイスが主体となるコミュニケーション (オーラル) とインターネットや電子メール等情報機器を利用した文字を媒体とするコミュニケーション (文字表現・作文) の両方を駆使できる人材を育成できるプログラムである。

### 入学前学習支援プログラムとTOEIC-IP Testの導入

英語科では、現在、入学前学習支援プログラムを実施しています。合格から入学までの間の学力の低下を防ぎ、基本的な知識をもう一度確認してもらうことが狙いです。「出会い」や「やる気アップ」のためのスクーリングも2~3回行い、大学に来て学びを体験することが出来るようにしています。さらに、基本的な英作・文法の力を固めるための問題集を配布したり、個人プロジェクト等の課題を与えたりしています。

また本学科では、数年前からTOEIC-IP Testを導入しており、全学生が本キャンパスで、入学時4月と卒業前の1月に計2回受験できるようにしています。それによって、学生たちは入学時に自分のレベルを把握し、

弱点を自覚し、英語力向上を目指して学習していくことが出来るようになってきました。そして卒業時には、入学時とのスコアを比較することによって、本学における学習の成果の一端を知ることが出来ます。2008年度からは、TOEICの授業を増やしました。また、希望するなら、TOEIC-IPを2年間に3回受験することも出来るようにしました。

#### TOEICとは?

Test of English for International Communicationの略称。英語によるコミュニケーション能力を評価する世界共通のテスト。実践的な英語の運用能力を測ることが出来るため、新入社員英語能力測定や、海外出張、昇進の条件として利用する企業が日本でも増えてきています。

### 週8時間の英語漬け! Oral English

キリ短はこれまでも、「使える英語」で社会的評価を得てきました。その秘密は、「Oral English」の強化にあります。

「Oral English」では入学時にプレースメント・テストを実施し、習熟度別学習によってより効果的な教育を行っています。更に、一週間8コマ全てをネイティブ・スピーカーが担当し、イマージョン (英語漬け) の環境が実現できています。

学生は、入学してから卒業までの2年間、16単位のOral Englishを受講します。この充実した英語イマ-

ジョン環境の提供は、TOEICスコアアップにもつながります。入学時には、慣れない英語漬けの環境に戸惑いを見せる学生もいますが、やがてその表情は「生きた英語に触れる楽しさ」をエンジョイするものになります。



### 充実した英語教育設備の紹介



ラボ室(南2-5)  
模範の発音と自分の発音をPC画面上の波形で比較し、ネイティブのような発音が習得できます。



同時通訳ブース(チャペル内)  
月曜礼拝で同時通訳の実践が行われます。



CALL学習室(北3-1)  
「英検」や「TOEIC」などの対策ソフトがそろい、自分のレベル、ペースで学習できます。

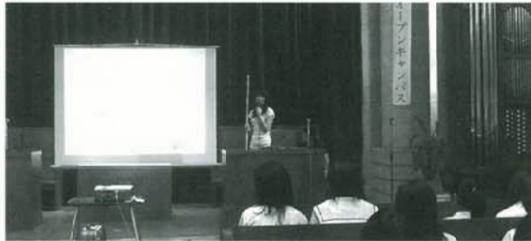
## 英語科「情報機器利用プレゼンテーション演習」の紹介

### 効果的なプレゼンテーションとは

英語科  
准教授 城間 仙子

プレゼンテーションとは、与えられた条件のもとで、自分の持っている情報・事実・考えなどを相手にわかりやすく正確に伝え、受け入れてもらうための行動です。英語科のコミュニケーション能力向上のための総合的アプローチでは、特に情報機器を利用したプレゼンテーションを通してコミュニケーションを図る能力を育成するために「情報機器利用プレゼンテーション演習」を提供しています。具体的には、効果的なプレゼンテーションに必要な視覚資料作成を支援するソフト「Microsoft PowerPoint」を活用して演習を行っています。プレゼンテーションは、贈

り物(プレゼント)によく例えられます。オーディエンスにそのプレゼントを①受け取ってもらい、②そのプレゼントに興味を持ってもらい、③持ち帰って大切にもらう。つまり、①プレゼンテーションを聞いてもらう、②内容に興味を持ってもらう、③印象に残し、行動に反映してもらう・・・ここまでできて初めて効果的なプレゼンテーションができたと言えるわけです。この授業では「効果的なプレゼンテーションとは何か」という問いから始まり、その目標に向けての様々な工夫と演習を行っています。



オープンキャンパスで授業の実践。「学科紹介のプレゼンテーション」



授業風景(コンピュータ室)

## 同時通訳のクラスと演習(月曜礼拝)

### 月曜礼拝を実践の場に

英語コミュニケーション学科  
教授 山里 恵子

通常のカリキュラムとして同時通訳(日⇄英)に関する科目が4つある。同時通訳基礎、同時通訳初級、同時通訳中級、同時通訳上級である。担当者として学生のやる気、チャレンジを期待している。

同時通訳において求められるのは、トータルな英語力・日本語力である。英語に関して特に注意すべきものは、豊富な単語力、しっかりした文法力、クリアな発音、スピーチの聞き取りと理解の4点を挙げる事ができる。日本語で気をつけなければならないのは、口調とイントネーションである。

同時通訳基礎・初級のクラスでは、クイック・レスポンスやシャドウイングという技法を用い語彙を増やす事と英語の流れについていけるよう徹底的に訓練する。中級・上級においては、同時通訳が出来るようサイト・トランスレーションを中心に学ぶ。ここで、文法力がいやがおうなく要求される。日本語と英語の語順の違いをどのように克服し、聞いた順序で訳していくのか、大いにチャレンジ精神をかきたてられる。ここまでくれば、実践を残すのみである。

本学には、幸いなことに、宗教部主催で毎週月曜日、礼拝が持たれる。牧師先生方のメッセージやクリスマス

ン学生の証などを聞く事ができる。建学の精神を学ぶ一時である。ありがたい事に、この礼拝の全てを同時通訳の実践の場とさせてもらっている。司会者の言葉、聖書朗読、お祈り、メッセージの全てを学生が同時通訳するのである。メッセージの通訳をするには、聖書を参考に適切な言葉で訳が出来るように準備しなければならない。同時通訳上級の学生が中心になって、その役目に果敢にも挑戦している。出来栄はいいときもあれば、悪いときもある。いずれにせよ、キャンパス内に同時通訳の実践の場があることは素晴らしい。卒業生も、時々参加している。

建学の精神を学びつつ、同時通訳にチャレンジする学生がもっともっと増えることを期待する。



山里先生の指導のもと、同時通訳実践(同時通訳ブースにて)

## 「TOEIC440点アップ!(入学時330→卒業前770)卒業生の紹介

### A trace of my English learning ~私の英語学習の歩み~

英語科49期 新城 菜海



英語コミュニケーションというものは決して机の上での学習だけでは身に付くものではありません。多くの人が同じような事を口にしますが、私はキリ短在学中にそれが真実だと実感しました。

キリ短のカリキュラムにあるように英作・文法では英語の構成をしっかりと学び、その学習内容を活かして読解力を身につけるのが英語講義の講義。そしてOral Englishの授業では表現方法や発音の練習をし、会話力・コミュニケーション能力を高めていく。多数の学生はこれらの講義内容で英語を学習しマスターしていくのだと思いますが、私はそれだけではとても満足できませんでした。そう思った私はキリ短の派遣留学という制度を利用して海外留学をすることを決心し行動しました。留学先では一日起きて寝るまで、時々夢の中でさえも英語に囲まれた生活をしました。リラックスした授業風景、学習法、オープンマインドな先生や現地の人々。数え切れない要素が私に「英語をもっと学びたい」という思いを起してくれ、また育ててくれました。

約10ヶ月ではありましたが、海外留学したという達成感と英語能力特にコミュニケーションをとるという点においては図りきれない大きな自信になっています。帰国してからもOral Presentationや異文化理解など英語に触れる講義を受けました。そして、留学する前よりも講義に積極的に楽しんで参加することができました。そして、帰国後TOEICを受験してみると自分でも信じられない

程高得点を取得することができました。

卒業後は旅行会社に就職することができました。英語は使うの?とおもつかもかもしれませんが、多くの外国の方が来店または電話にて問い合わせるので英語を使う毎日です。また、出張で海外に出ることもあるので現地で英語を使えるといこうとはすごく有利なのです。そして、私は持っている英語力を維持しつつ、更なる英語力の向上を狙い英語検定等を積極的に受験しています。更には、週1度英会話に通っています。そうしたことで昨年12月には英語検定準1級に合格することができました。これからいろいろな検定に挑戦していく予定です。

最後に、私のように「英語が好きだ」と思いマスターしたいと思っている人はぜひ一歩外に目を向けて海外で心も満足しながら英語の環境に囲まれて過ごしてみたいと思います。

そして楽しむ事も大事ではありますが、しっかりとした基礎をしっかりと学習した上で一生懸命習得した英語能力を駆使して外国の人々とコミュニケーションを取れる喜びを実感して欲しいと思います。頑張れ!!!

#### 経歴:

- 2004年4月 沖縄キリスト教短期大学 英語科入学
- 2005年4月 派遣留学にてニュージーランドへ留学
- 2006年1月 帰国
- 2006年9月 沖縄キリスト教短期大学 英語科卒業
- 2006年9月 沖縄ツーリスト株式会社 実習生として入社
- 2007年4月 新入社員となり現在に至る。

## 通訳で活躍している卒業生の紹介

### 通訳を通しての貴重な体験

英語科 41期 諸見里 美梨阿



私は沖縄キリスト教短期大学で勉強が出来たことは本当に良かったと思います。それは、一年次に同時通訳集中講座を受けて、第一線で活躍される同時通訳の素晴らしい方々に出会えたからです。この講座では、斎藤美津子先生をはじめとする、英語コミュニケーションのエキスパートから英語能力向上の学習方法や通訳の訓練等を10日間指導を受けました。この講座は私が通訳家になろうと思ったきっかけです。その後、キリ短での同時通訳講座計3回を受講し、山里先生が担当される礼拝での同通にも積極的に参加しました。お陰で、県主催の同時通訳者養成事業に合格し、東京で2年間、通訳の勉強をすることが出来ました。

私の学習方法  
同時通訳講座で習ったシャドウイング(聞き取った英語のすぐ後について声を出し、影のようについていく練習のこと)という訓練方法は英語能力を高めるのに大変役に立ちました。ネイティブスピーカーのまねをすることで発音やアクセント、抑揚が身につくからです。また、まねをするためによく聞かないといけないのでリスニングも良くなります。そして、新しい単語に出会ったら確認することが大事です。通訳者を目指さなくても、英語能力向上にはお勧めする学習方法です。私は今でも英語ニュースのシャドウイングをしています。

#### 得たものをすべて活かす

卒業後、キリ短でよく礼拝の同時通訳をさせていただいた経験を、面接の時にアピールし、採用に繋がったケースは少なくありません。お陰で、愛知万博にゲストのアテンド通訳として行ったときVIP待遇を受け、また首相官邸に入ることも出来ました。TBSのテレビスタジオで生放送の番組に出演することもありました。

沖縄に戻ってからは、ウチナンチュ大会での同通、IDB大会では業務連絡通訳、島サミットでは首脳婦人付き人通訳なども経験しました。

#### 在学生の皆様へ

通訳業務にはいろいろな形や分野があります。自分にあったものや興味のあるものから始めると良いと思います。キリ短は素晴らしい設備が整っているのが最大限に活用して下さい。そして、英語が話せるだけでなく話せて何が出来るか、または何を伝えたいかをはっきりとしていれば学習ももっと楽しくなり、そして成果が目に見える形となって現れると思います。私の場合、英語を学んだことで貴重な体験ができました。皆さんも是非そういう体験ができるように頑張ってください。



ミス・インターナショナル候補の方とランチ

## 2007年度採用教員紹介

### 英語コミュニケーション学科 「本を務む、本立ちて道生ず」



名嘉山 興武

職位：特任教授  
出身：山梨大学工学部  
学位：工学士（土木工学）  
専門：教育の意義、教育総合研究  
教育実習研究等の教職科目

2007年4月に赴任しました。四年制の完成年度を迎えるにあたり、38年間学校教育現場に携わった経験を、時代を担う児童・生徒の教育に係わる教員の養成に活かすため教職課程コースの講義を担当しています。

さて、表題の「本を務む、本立ちて道生ず」は、私の教育信条です。人間はその毎日の生活において、様々な問題に直面するのですが、その解決のためには、枝葉末節のことや形だけにとらわれることなく、そのことに関わる根本問題を把握することの努力を傾注し進めることが肝心である。すなわち、根本となるもの、ものごとの本質を確実に把握することができれば、あとは自然に、解決のための方法が考えられるという意味です。

教育とは、学校とは、授業とは…という「教育の営み」の本質をしっかりと押さえることは勿論のことであるが、本学院が建学50周年、四年制の完成、大学院の設置という大きな節目、分岐点を迎えたこの時期、本学院の設立の経緯・建学の精神を十分理解・自覚して、学生と共に学び向上したい。

### 英語科

### “Ideal Education.”



William Randall

職位：特任教授  
出身：Union theological seminary  
学位：M.Div./S.T.M  
専門：平和学

After retiring as Professor Emeritus from the faculty of OIU and then from the pastorate of the Futema Baptist Church as Pastor Emeritus, I am very happy to spend some of my “mature” years sharing my experience and understanding of life with students at this university. My teaching responsibilities include Bible Reading, Peace Studies and Research in the Philosophy and Practice of Nonviolence.

I am very happy for three main reasons: First, education in this university is firmly founded on Christianity. In the second place, this school has an excellent program of preschool education. This is important, as an ancient wise man said; “Train up a child in the way he should go and when he is old, he will not depart from it.” And finally, this school has a rapidly developing program of English International Education, engaged in the vital task of giving young people the tools needed for full life in this modern age.

Welcome newcomers; whatever your major or personal aspirations may be, you will soon find, as I have, that you have come to the right school.

### 日 訳 「理想に適った教育」

私は、沖縄国際大学の名誉教授として引退し、そして普天間バプテスト教会で名誉牧師として引退しました。そして今回、「第三の献身」として、この大学でこれまでの私の経験・人生観について、学生達と共有できる機会に恵まれたことをとても嬉しく思います。私の担当教科は「英語聖書講読」、「平和学」、そして「非暴力思想の研究」です。

私にとって、この大学は理想の大学であるといえます。その理由として一つに、この大学の教育が、キリスト教精神にしっかり基づいているということです。次に、この大学には素晴らしい幼児教育プログラムがあるということです。かつて、古代賢者がこのように言っていた。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」つまり、幼児にとって優れた教育プログラムの中で育つということは、とても重要であり、本学はその優れた教育プログラムを提供する人材を養成している。最後に、この大学は優れた英語国際教育を行っているということである。その教育によって、学生達は生涯不可欠な手段を得ることができる。

学生の皆さん、あなたがどのような大きな夢、目標を抱いていても、あなたは私のように「この大学を選んでよかった」と、すぐに気づくことでしょ。

### 総合教育系

### よろしくお祈りします。



内間 清晴

職位：教授  
出身：琉球大学大学院理工学研究科  
博士後期課程  
学位：博士(理学)  
専門：物性物理学

昨年3月、14年間勤めた県立高校教員を退職し、同年4月沖縄キリスト教短期大学・総合教育系教員として赴任いたしました。高校教員時代は、多くの生徒をキリスト教短期大学・キリスト教学院大学へと送ってきましたが、これからは受け入れる立場になります。これまで外から見ていたキリ短ですが、実際にキリ短の教員として学生との関係を一言で表現するならば、「学生と教員の距離が近い」という事です。前期はコンピュータリタラシーと表現技法を担当しましたが、ほぼ毎日、学生達が質問するため研究室を訪ねて来る事にはとても感謝し、嬉しく思いました。質問よりおしゃべりが多かった時もありましたが、学生とコミュニケーションをとるという意味では、おしゃべりとはいっても、大切な事だと思えます。

私が学生達に望むことは、自分の専門分野だけを学ぶのではなく、幅広く学び、社会に出ていっても何事にも主体性を持って取り組める人間になって欲しいということです。それを目標に学生達と共に学べる事をとても嬉しく思っています。

### 総合教育系

### 教育における「何か」



張本 文昭

職位：准教授  
出身：筑波大学大学院修士課程体育研究科  
学位：修士(体育学)  
専門：体育、野外教育

高齢の水泳の先生が非常に遅いストロークで自分より速く泳げること、その見えない力に感動した。「アリをしばらく観察した後、殺してその感想を書きなさい」という哲学のレポート、結果的に殺さなかった自分がいた。禁煙教育を進める保健の先生がヘビースモーカーだったこと、その矛盾を貫く姿勢に感心した。学生時代を振り返ると、そんなことはよく覚えている。しかし一方で、何の記憶も残っていない授業が圧倒的にほとんどだ。

記憶に残る、残らないの差は、「何か」が存在したかどうかだと思う。その「何か」を求めながらキリ短で授業をしているつもりだ。『教育とは、習ったこと全てを忘れた後に残るもの』僕はそんな教育を考えたい。体育実技や体育理論、表現技法も、僕が伝える内容は全て書物やweb上にいくらでも書いてある。それをわざわざ、生身の人間がするからには、やはり意味を持ちたいと思う。言葉や数字で表すことのできない「何か」が学生に残ればと思う。

## 『特色ある授業紹介』

### 「生活環境論」(英語コミュニケーション学科)

科研費に採択された研究が反映されています。

教授 近藤 功行



最近、法律用語や授業科目を表す場合などを除いて「障害」ではなく、「障壁」または「障がい」と表記されるようになった。また、バリアフリーやノーマライゼーションなどと、医療福祉はどんどん見直されつつある。この授業では、これからの医療福祉のあり方について考えていく。そのためには障害者観をより深く考究していく必要があると考えている。私は、3障害(身体・知的・精神)の中でもとりわけ、精神障害者の雇用に対して着目している。昨年度から、障害者雇用率の中に精神障害者が加わった。

「精神障害者、回復者の就労」についての私の研究を用いて、学生たちと「障害者雇用、その職種、職場環境」について説明し、共に考えていきたい。また、障害者についてだけではなく、「百寿者(センテナリアン)が生活する家庭環境」「看取りの問題」などもテーマに取り上げ、元気な高齢者であることの意義についても学ぶ。このように障害者・高齢者の快適な生活環境、ライフスタイルについて考えていくことを授業の目的とする。そして、医療福祉学的観点から、QOL(Quality of Life)に相対するQOD(Quality of Death)の視点を照射しつつ、障害の有無ではない人生・生・生活・生存・生命の質も追求していきたい。

※ 科研費とは科学研究費補助金の略で、独自の・先駆的な研究と認められた研究に対し国が助成金を与えるもの(競争的研究資金)。近藤先生の研究「精神障害者、回復者の就労をめぐる医療社会学的研究」は、科研費の基盤研究C(一般)境界医学領域として採択され、平成17・18年度(2年間)にわたり研究が行われました。

### 「保育メディア研究」(保育科)

手づくり絵本を開発途上国の子どもたちへ

非常勤講師 平田 幹夫



これからの保育士や幼稚園教諭には、情報収集能力やマルチメディア活用能力が強く求められている。この授業では、保育教材の制作や校務及び園行事等を効率的・効果的に行うために必要であるワープロソフト(ワード)、お絵かきソフト(ペイント)、プレゼンテーションソフト(パワーポイント)を学生が活用できることを目指している。

場面における自画像を描く、②教育実習園での子どもと遊んでいる場面を描き額縁に入れ学生食堂に展示、③ペイントで描いた絵と文章を市販の絵本台紙に貼り付けて絵本を作製し、図書館で展示。2月には、作成した絵本を、英語コミュニケーション学科の学生達が英訳し開発途上国の子どもたちに贈られる予定である。

この授業をとおして、優しさと温もりを感じられるようなマルチメディア活用能力を持った学生を培っていきたい。

ワードを活用した授業では、レポート提出等では活用する機会が殆どない様々な機能を使い、クラス便りを作成したり、1週間の保育計画である週案の作成を行う。

パワーポイント活用授業では、自己紹介や母の日の感謝の手紙、保育実践や保育研究及び園行事等をわかりやすくプレゼンすることを行う。

ペイントを活用した授業では、①喜怒哀楽



保育科2年次、石川絵理さんの作品が英訳され、ネパールの子どもたちへ贈られます。

「表現技法」(総合教育系)

表現技法の講義を振り返って

教授 内間 清晴

「表現技法」の講義は、本学オリジナルテキスト「表現技法マニュアル」を使用して、学生達が小学校から高校まで作成してきた感想文等の情意文ではなく、認知文(説明文、論説文等)の作成ができる事を目指しています。授業では、精読、要約の基礎訓練を行い、それを、ブックレポート、論評文へとつなげていきます。キリ短の全学生へ総合教育系提供の必修科目として、1クラス30名前後で、丁寧な指導を行っています。

私の講義では、「論評文」に重点をおきました。「論評文」とは、「ある特定のテーマについて述べられた論文を読み、その論文で展開されている主張・意見・考え方等について論理的に論議すること」です。最初の講義で学生達に「毎日、新聞(テレビ・スポーツ欄以外の記事)を読んでいる人は何人いますか?」と聞いたところ、62人(内間担当2クラス)中、数人しかいなかったことには驚きました。ちょうどその頃は、沖縄戦の「集団自決(強制集団死)」をめぐる日本史教科書検定問題がほぼ連日、新聞掲載されて

いましたので、タイムリーなテーマとして取り上げました。最初は、学生達には少し重いテーマかとも思いましたが、新聞記事を読むことでさえ抵抗のあった学生達が、しだいに「集団自決」というテーマに真剣に向かい合うようになりました。学生達の中には、午後10時近くまで大学に残り、多くの本や論文を読みレポートに取り組んだ学生もいました。最終講義の時間に講義全体を通しての感想を書いてもらいました。その中で印象に残っていることは、「真理を見極める目を養うことは、とても大切なことだと知った。どんな時でも自分の考えと、それを表現しようとする意志を持ちたい」ということです。表現技法の講義を通して、私の期待以上の学生達の成長を見ることができ、そのような学生達に出会えた事を嬉しく、誇りに思いました。今後も、学生一人ひとりが社会のあらゆる事に関心を持ち、健全な批判的精神を養うことのできるような講義を目指していきたいと思えます。

～ 学生達と集団自決の証人 金城重明先生を訪ねて ～



那覇中央教会を見学



金城先生とお話

「表現技法」全講義終了後、数人の学生から「集団自決の証人である金城重明先生に、直接お会いし話を伺いたい。」という要望があり、金城先生が牧師をなさっている那覇中央教会をお訪ねしました。学生達は、金城先生から直接、話を伺える時間を大切にしようという思いから、予め質問事項を整理しまとめていました。「なぜ政府は真実を隠そうとするのか?」「隠すことで何の利益があるのか?」「キリスト教徒は平和への発信をするというが、多くのキリスト教徒がいるアメリカは、なぜ戦争を起こすのか?」等と、積極的に質問していました。金城先生は、「教会まで訪問してきた県外の学生は多くいたが、県内の学生では初めての事だ。」と喜んで学生達を受け入れて下さり、学生達の質問ひとつひとつに丁寧に答えて下さいました。その金城先生の応答を、一言も聞き逃さないように真剣な態度で聞いている学生達を見て、教師としてとても嬉しく、そのような学生に出会えた事を誇りに思いました。私にとって赴任最初の「表現技法」の講義は、正直不安もありましたが、講義を通して学生達の成長していく姿を見ることができ、この講義を担当できて本当に良かったと実感しました。今後も学生達の成長がみられるような講義ができるように、学生達と共に学んでいきたいと思えます。



保育科1年 金城まり子(左から1番目)

金城重明先生は「生きることが恐ろしい」という状況を引き起こした強制集団死を時代背景や多方面から幅広い視野で丁寧に話して下さいました。戦争体験者の思いへの理解と、戦争を引き起こしてはならないことを深く学んだ。

保育科1年 宮良 弥子(右から3番目)

金城先生の話を聞いて、私の間違った知識に気づいた。「沖縄の人達が自ら自決を選んだのではない」ということ。集団自決の原因は「軍命は絶対であるという教育」、もう一つは「自分の考えを言うことができない社会」にあると思う。今後は、真実を隠そうとしている。隠すことは、再び過ちを繰り返すことになるかもしれない。二度と同じ過ちを犯さないため、私達は真実の目を向け、反省していくべきだと思う。

保育科1年 宮里 美香(右から2番目)

金城先生の話を聞きに行くまでは、まだ私は63(64)年前の事実を人に伝える立場になるのではなく、まだ聞く・受け入れる立場なのだと思います。でも、金城先生が辛い過去を私達に話してくれているときに、将来このようなことが二度と繰り返されることはないと思います。私は将来保育士や幼稚園教師として子ども達に真実を伝えていきたいです。そして、沖縄から平和を発信していきたいです。まだどのよう子ども達に伝えていけばいいのかわかりませんが、残り一年間の学生生活の中で子ども達に伝える力をつけていきたいです。

保育科1年 宮本 佳代子(右から1番目)

戦争の敵は戦争そのものであり、充足律など働かないもの。又、戦争体験の証言者が現存するしないは関係ない。私達個人が常に考えていく事が、継承行為であり一番大切なことなのだと思います。

『～応援します！高校生～』

沖縄キリスト教学院大学・短期大学では、高校生を応援しています。

「高校生の学び応援プログラム(出前講座)」 出前承ります!!

本プログラムは、新しいスタイルの入試説明会であり、県内高等学校へ出向いて実施されています。講座リストからご希望の講座を選び、申し込んでいただければ、スケジュールの調整を行い、講座が出前されます。「学ぶ喜び、面白さ」を伝える講座を通し、高校生の学びを応援します。既に、いくつかの高等学校で実施されました。

\* 目的

高校生に「学ぶ喜び、面白さ」を伝える。

\* 講座の内容

- (1) 時間:30分～※相談可
- (2) 内容:高校生の学ぶ気持ちの火種となるような内容。体験型のクラス。
- (3) 費用:無料。大学側の責任において実施。

※ スケジュール等につきましては、本学入試課へ

高校生への学び応援プログラム講座リスト(後期)

2007.10.9～2008.3.31

番号	講座名・内容
1	* 死生学を学ぶ
2	* 「のび太」とはいったい誰だ? 一英語学習・表象文化論の「#かり」としての「ドラえもん」
3	* ～こうすれば身につく～ 新聞の読み方
4	* ロミオとジュリエット
5	* 国際理解教育 一多様性への理解を深めよう
6	* フェアトレードって何?
7	* 相手に届く話し方の技を磨く
8	* 赤ちゃんポストはなぜか
9	* キリスト教がわかれば欧米文化がわかる
10	* 大学体育って何するの?
11	* 目かくし歩きで、「思いやり」を再発見!!!
12	* こころの科学 一ドラえもんとその仲間たち
13	* 「クリティカルシンキング(批判的思考力)とクリエイティブシンキング(創造的思考力)を鍛える」
14	* 「子どもっておもしろい!」

「高校生の大学見学」 Welcome to OCU & OCJC !!

本学では、高校生の大学見学を歓迎しています! キャンパス内の見学だけでなく、大学生と一緒に大学の授業を体験することができます。

これまでに、具志川高校・南風原高校・陽明高校等の学生が見学に訪れました。希望があれば、「高校生の学び応援プログラム」の講座を本学で受講することも可能です。高校生の皆さん! この貴重なチャンスをお見逃しなく。



具志川高校のみなさん



体験授業(オーラルイングリッシュ)



体験授業(Asian Studies)



本学見学で「学び応援プログラム」から「国際理解教育」を受講

「高大連携教育」

高校生の将来の進路選択や学習への意欲・関心を高めることを目的に、高校生が大学の講義を受講できる高大連携事業が行われています。本学では、西原高校と連携教育協定を締結しており、今年度も計8人の高校生が、本学学生と一緒に講義を受講しました。

前期

オーラルイングリッシュ 3人  
保育原理 2人

後期

英語 3人

「大学の講義を受講して」 高校生の感想

高大連携を受ける前は大学での勉強がどういうものなのか、不安と期待で胸がいっぱいでした。講義を何回かやるにつれて高校の授業との違いがたくさんありました。大学の授業は90分の授業であったり、最初から最後まで英語での授業で少し大変でした。大学の授業ではいろんな事を学べたのでとても楽しかったです。高大連携は西原高校でしかやってないのでとてもいい経験になりました。この経験を生かして、大学生になったら一生懸命頑張りたいです。

## 「第19回 高校生英語弁論大会開催」



本学学生による発表者紹介



Ulvog先生とのQ&A

結果詳細は以下の通りです。

順位	学校名	学年	入賞者名	演題(邦題)
1位	沖縄尚学高等学校	3	神里 受理	Being Appreciated for All of Who You Are (あるがままの自分が美しい)
2位	那覇国際高等学校	3	東江 亜希子	No Landmines For Real Peace (地雷のない世界を~真の平和を目指して~)
3位	向陽高等学校	2	山城 将聖	What we can do for world peace (世界の平和のために出来る事)
	沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教短期大学 学長賞(神山繁賞)	1	神里 涼香	The Earth is Crying (地球の危機)
	大会審査員長賞 (Best Impromptu)	3	大滝 由美	I am Japanese (日本人として)

去る12月15日(土)に「第19回高校生英語弁論大会」が本学チャペルにて開催されました。第1次審査で応募した22校の中から厳選された12人の高校生がスピーチを発表しました。5分間の発表の後、発表した内容に関して審査員からいくつかの質問を受け、答える(全て英語)という形式で行なわれました。入賞者には楯と賞状、賞金が授与されました(結果詳細は以下の通りです)。

また大会運営には、Public Speakingを受講した本学英語コミュニケーション学科の学生が、英語でSpeaker(発表者)の紹介を行う等、授業で学んだスキルを実践しました。



1位入賞者神里さん



福村先生指導のもと、Pub.S.受講生の実践



入賞者の皆さん「おめでとうございます。」

## 「オープンキャンパス盛り上がりました！」

2007年度オープンキャンパスが、6/2(土)・7/7(土)・8/9(木)・9/8(土)計4回の日程で行われました。音楽礼拝・本学学生による学科紹介・先輩とのしゃべり場・キャンパスツアー・体験授業・サークル紹介・学食無料体験等と充実したプログラムで行われました。本学学生・教職員も、たくさん的高校生達と楽しいときを過ごすことができました。



「私達が案内します!」(本学学生)



サークル紹介(ダンスサークル)



体験授業(オーラルイングリッシュ)



体験授業: 幼児の「色遊び」



体験授業: 絵本、紙芝居、エプロンシアターの演習

## 『キャンパスニュース』

### 「クリスマス礼拝・祝会を感謝」

6カ国語とウチナーグチの聖書朗読、三線伴奏によるキャンドルサービス 英語コミュニケーション学科 准教授 金 永秀  
琉球讃美歌、本学特色のクリスマス礼拝

12月21日、本学院仲里朝章記念チャペルでクリスマス礼拝がおこなわれました。司会は四年生の山内淳さん、クリスマス聖歌隊(神谷智子先生指導)、真栄城隆司名誉教授率いる有志オーケストラ、卒業生田頭秀美氏のオルガンに加えて、伊波健二氏(本学評議員)の三線伴奏によるキャンドルサービスでした。英語、インドネシア語、中国語、韓国語、スペイン語、日本語、ウチナーグチの聖書朗読があり、琉球讃美歌が初めて歌われました。金永秀学部長が「キリストを迎えた人々」という題で説教。聖書に見られるキリスト誕生を真に迎える人々とそうで

ない者の対比から、創立50周年を迎える本学の教育が示唆されました。又、内外の援助を必要とする人々を覚えての席上献金は215,945円。貯金箱を捧げた方もいます。

礼拝後、体育館で柳田先生と学生の斉藤甚さんの司会で祝会が持たれました。神山学長挨拶に始まり、食事と学生の出し物を堪能しました。記録的な豪雨の中、予定時間を超過するまで主イエス・キリストの誕生を祝うことができ感謝です。閉会の祈りは、スラッシャー学部長でした。労してくださった全ての方々に深く感謝いたします。



本学学生からなる聖歌隊



オーケストラによる生演奏

### 「創立50周年記念に向けて」

「沖縄キリスト教学院創立50周年記念ホームカミングデー(同窓会・後援会共催)」が4月8日に行われました。礼拝では知花真康同窓会長よりメッセージを頂き、その後の神山学長による講話では「本学院の近況・課題」について話され、訪れた100人近い卒業生と学校関係者が、母校のさらなる発展を願いました。10月13日には、「沖縄キリスト教学院創立50周年記念シンポジウム(本学50周年記念行事部会主催)」が行われました。「平和創造と大学教育」と題し、学長経験者や卒業生ら4人のパネリストが大学・短大と自身のかかわりを振り返り、平和教育や英語など本大学の特色や将来の展望について意見が交わされました。1月25日に「同窓会の新年懇親会(同窓会主催)」が行われました。今回は新同窓会会長

である譜久原会長の提案により、同窓会だけではなく次期学長に選出されたスラッシャー学部長、本学役員及び本学関係者、そして新旧学生会メンバーも参加した賑やかな懇親会となりました。また懇親会では、「50周年記念式典に向けて、私達同窓会ができること」について意見を出し合いました。同窓会では「創立50周年記念チャリティーゴルフコンペ」を3月30日に実施予定し計画を進めています。



創立50周年記念シンポジウム

同窓会の新年懇親会

### ご案内

- ※ 「神山繁実学長及び退職者感謝会」 日時: 2008年3月19日(水) 18:00~20:30  
場所: エリスリーナ西原ガーデンヒルズ
- ※ 「Randolph H. Thrasher学長就任式」 日時: 2008年4月1日(火) 9:00  
場所: 本学
- ※ 「沖縄キリスト教学院創立50周年記念式典」 日時: 2008年6月14日(土) (午後2:00予定)  
場所: 本学

## 「第43回 キリ学祭(学生会)」

皆に、そして支えてくれた方々に感謝

学祭実行委員長 與儀 遙

第43回キリ学祭が11月10・11日に行われました。今回のテーマは「いちぢりばちよーでー フェスティバル Let's try! リデュース・リユース・リサイクル!」で、自分たちが出来るエコ活動について考えるために決めました。事前活動として、少しでもエコ活動に対する意識を高めるため、総勢約110人もの実行委員と共に、学内外のクリーン活動を行いました。学祭運営のために、19人のリーダーを中心に7月から活動に取り組み、役割を6つの班に分担しました。広告などPR活動を行うPS班、駐車場を案内するP班、出演者への連絡係のステージ班、衛生管理や出店の管理をするエコ班、学祭のシンボル、空き缶を利用してのオブジェを制作する壁画班、そして学祭全般を総括する本部。活動をしなが、リーダー・実行委員同士の信頼感が強まっていくのを感じました。学祭当日は、予期せぬ問題が発生することもありましたが、一人ひとりが臨機応変に全体を把握しながら対応し、大成功に終わる事が出来ました。色んな苦難を皆で乗り越えたからこそ、この達成感を感じることができたのだと思います。支えてくれた皆さん、心から感謝いたします!



郷土文化研究サークル エイサー団レキオ



児童文化研究サークル 「アンパンマン体操」



英語劇サークル メルローズ[Melrose Cafe]

## 「OCU ラジオ番組 スタート!!」

「OCUアワー・イングリッシュカフェ」から情報発信

英語コミュニケーション学科  
新里 恵梨

6月に始まったEnglish Cafe、8月から内容を変え、リニューアルオープンしました。収録前には、番組運営をしている仲間達とミーティングを持ち、プログラム作成・曲の選曲・ゲストの選出等を行い収録に挑みます。最初の頃は毎回が試行錯誤でしたが、今ではこの仲間と共に番組を作る時間がすごく楽しいです。これからも発信する情報に責任を持って、番組を作っていきます。

FMで教養番組発信  
沖縄キリ学大・2局で10日から  
学校や卒業生らも紹介



番組収録に臨むスラッシャー教授(右)と学生ら  
5日、浦添市前田・F.N21  
提供：沖縄タイムス 2007年(平成19年)6月8日(金) 朝刊

## 「新校舎建築について」

事務局長 与儀 勝彦

長年の懸案であった新校舎建築がやっと日の目を見る。学生初め関係者の方々に改めて感謝を申し上げます。

首里から西原町に移転して早や18年になるが、この間、四年制大学が設置され、又、今年4月から大学院も始動する。本学は元々少人数クラスが多く、当初より教室の稼働率も高く、長年、教室等の不足に悩まされてきた。新たな学部設置等も見据え、愈々、2009年4月からの供用である。



- ◆ 概要  
規模：地上2階建、延べ床面積 約2,350 m<sup>2</sup>
- ◆ 主な教室等  
大教室、大学院生用研究室、ゼミ室、教員研究室、学生ラウンジ、多目的スペース、IT教室、自然科学実験室、LL教室  
キリスト教文化研究所、託児室、同窓会・後援会事務室、他
- ◆ 工事スケジュール(予定)  
2月以降、建築確認申請作業  
6月下旬、工事着工  
2009年3月頃、竣工

## 入賞サークル・学生の紹介

「WLO (We Love Okinawa)サークル

ソニーマーケティング学生ボランティアファンドよりAコース助成金が決定!

活動名称 「クリーン活動と自然体験活動および環境美化活動」

活動概要：沖縄の海岸でのごみ拾い活動を継続的に実施。地元の高校への啓発活動・協力依頼や地域社会への問題提起を行う。

※ ソニーマーケティング学生ボランティアファンドは、ソニーマーケティング株式会社が学生ボランティアのグループ活動に対して助成を行っているものです。Aコース(25万円上限)、Bコース(10万円上限)としている。



WLOサークル 第12回 活動報告

部長：坂田 悟一  
副部長：大城 藍花  
新里 裕大

2008年1月27日(日)、10時から12時まで「西原マリンパーククリーンアップ大作戦」が西原町で行われました。このクリーン活動に沖縄キリスト教学院学生会とWLOサークル(13名)も合同で参加しました。当日は、時折小雨も降る天気でした。しかし、町民ほか大勢の方々が参加していました。

クリーン活動で拾うゴミの多くは、ペットボトルや缶など行楽後に出る資源ゴミでした。これらのゴミは一人ひとりが持ちかえることで無くなるのと同時に、再利用可能なゴミです。

野外でポイ捨てをする人がいる限り、これらのゴミは自然環境になんらかの影響を与えられます。ゴミを拾いながら海や公園をキレイにす

るだけではなく、ゴミを持ち帰ることを訴えることが大切だと思いました。一人でも多くの人の意識が変わるように、今後も地域や教育機関と協力し、クリーン活動を続けていきたいです。



## 「県内大学初! 優秀学生顕彰事業 優秀賞受賞(日本学生支援機構)」

受賞部門:文化芸能

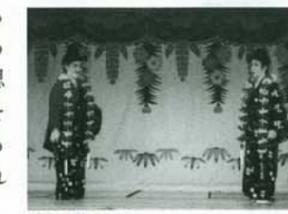
【古典芸能】琉球古典芸能コンクール琉球舞踊

英語コミュニケーション学科4年 前川 絵里

私は、幼少時代から沖縄の古典芸能・琉球舞踊を学んできました。学問以外での大切な事の学びもあり、私自身の成長へと繋がったと思います。両親は、私に琉舞の魅力を教えてくれました。次は、私が琉舞の魅力を伝えていける人になりたいと思います。今回の受賞は、私に琉舞の環境を与えてくれた両親や支えてくれた親族への恩返しになると思います。私が伝えていく人になれるように、奨励金を活用し、私自身技を磨き琉球舞踊を全国的に広めていきたいと思っています。奨励金は、私の様に将来の夢に向かって進む人にとって背中を押してくれる大きな力となり、励みになると思います。

私は、母からの教訓(言葉のプレゼント)を胸に継続することの大切さを知りました。「物事は、信じてやり通した者だけが本物になれる」その意味は、生きてく中で全てにおいて当てはまると実感してい

ます。物事を学ぶ上でも、研究する上でも、指導者や研究している事を信じて続けることは、大きな成果を生んでくれます。どんなに辛い時も、苦しい時も、母の言う「感謝しなさい。」の言葉は、私を前向きにしてくれました。これから、社会に出ても母の言葉は胸に染みるほど伝わってくると思います。「感謝の心をもって、信じて続けることの大切さ」を忘れずにいたいです。



左側が前川さん

## 「沖縄キリスト教学院大学 第一期生 卒業!! (キャリア開発課)」

2008年3月、沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科の学生達が、第一期生として卒業します！卒業おめでとうございます。これからも一期生としての誇りを持って頑張ってください。



キリ学一期生教職メンバー



就職セミナー



### 「キリ学第一期生として」

英語コミュニケーション学科4年次  
金城 仁 (糸満高校卒業)  
就職先：JA おきなわ (内定)

私は、キリ学第一期生として社会に貢献したい。大学で学んだ専門や、培った精神力と行動力で、日々の生活を邁進していきます。常に思いやりの心を忘れず、社会人として、人として慕われるような人材として成長していきたいと思えます。



2007年就職の翼



就職ガイダンス(模擬面接)

### 主な就職先

(県内)

ゆうちょ銀行、琉球銀行、日本生命保険相互会社、沖縄テレビ放送、JAおきなわ、日本トランスオーシャン航空、ANAセールス沖縄、ザ・テラスホテルズ、JTB沖縄、エアークロム、ジェイ・エス・エス、大同火災海上保険、コザ信用金庫、東京第一ホテル、エイチ・アイ・エス沖縄、外為どっとコム他

(県外)

クイック、大和グラビヤ、光和マイクロプロジェクト、エフケイ、ディスコ、福島日野自動車、ラムラ、日本ソフテック、シブナル広告社、パスコ、ジェリー・ロジャー、安藤証券他

### 主な進学先

関西外国語大学・大学院、琉球大学・大学院、沖縄キリスト教学院大学・大学院

## 資格取得奨励金給付制度 ～英語に関する資格取得を応援します！～

学生の自発的な資格取得の頑張りを応援するのが、「資格取得奨励金給付制度」です。また、在学中に複数の資格を取得すれば、積み上げで最大20万円まで給付します。

奨励金10万円対象資格	奨励金5万円対象資格	奨励金1万円対象資格
実用英語技能検定1級	実用英語技能検定準1級	実用英語技能検定2級
TOEIC860点以上	TOEIC730点以上	TOEIC500点以上
TOEFL-CBT253点以上	TOEFL-CBT213点以上	TOEFL-CBT150点以上
TOEFL-PBT610点以上	TOEFL-PBT550点以上	TOEFL-PBT470点以上

資格取得奨励金給付実績(2007年4月～2008年2月)

	四大	短大	計
実用英語技能検定準1級	5名(2名)	2名(0名)	7名(2名)
実用英語技能検定2級	28名(34名)	20名(19名)	48名(53名)
TOEIC860点以上	2名(0名)	1名(1名)	3名(1名)
TOEIC730点以上	2名(3名)	5名(4名)	7名(7名)
TOEIC500点以上	7名(15名)	12名(25名)	19名(40名)
TOEFL-PBT550点以上	1名(0名)	0名(0名)	1名(0名)
TOEFL-PBT470点以上	0名(1名)	0名(0名)	0名(1名)
計	45名(55名)	40名(49名)	85名(104名)

※( )内は昨年数字

### 資格取得にチャレンジ!



3月に卒業を迎えますが、本学の「資格取得奨励金給付制度」を利用して昨年にはTOEICで930点、英検では1級を取得することが出来ました。この制度を通して英検、TOEIC、TOEFLといった「身近」な目標にチャレンジすることで、奨励金という「張り」と共に自身の「成長過程を確認」出来たことに意味があったと思います。

また、本学のカリキュラムではコミュニケーション能力に不可欠な4技能(聞く、読む、話す、書く)

英語コミュニケーション学科4年次 山内 淳(沖縄水産高校卒業)  
平成20年度派遣国外学生(県費)内定 種別:修士課程 派遣先:アメリカ

のバランスが重視されているため、英検、TOEIC、またTOEFLといった実践的な試験にも柔軟に対応出来ました。入学時には英検2級のレベルもなかったことを考えると、本学における学びで「英語を使える能力」が格段に高まったと確信しています。

加えて、在学中には英語礼拝やクリスマス礼拝の司会もさせて頂き、色々な活動に参加する機会にも恵まれました。在学生のみなさんも、英語に関する資格取得をはじめ、色々なことに積極的にチャレンジして下さい。

## 『学生の活動』

### 「児童文化研究サークル」



### ☆子ども大好き☆

児童文化研究サークル長  
保育科2年次 大城 藍花

#### 2007年度活動状況

2007年	5月	馬天小学校
	8月	九州人形劇フェスティバル 糸満市立中央図書館
	10月	トミトン
	11月	とよみ保育園
	12月	前田公務員宿舎 子どもの国(ワンダーミュージアム)
2008年	1月	田場小学校 宜野湾市四館合同児童センターまつり
	2月	保育祭り

児童文化研究サークルでは、「子どもが好き・子どもたちを楽しませたい」という気持ちを持った学生が集まり、保育園・幼稚園・小学校・図書館などの施設でフィンガーアクション・ボードビル・人形劇・ペープサートなどを披露しています。公演依頼に応じ毎月2～3回程度の公演を行っており、部員は約70名います。依頼者の期待に応えられるように練習に励んでいます。練習は個人練習から始まり、リハーサルではお互いに足りない部分を指摘し合い反省を通して毎回すばらしい公演になるよう努めています。学園祭・保育祭りでは、毎年新しい作品を制作し披露しています。今年は食育をテーマとした「グリーンマントのピーマンマン」の絵本を元に人形劇制作に取り組みました。音響・脚本など一から作品を作るの大変さを感じながらみんなで協力し上げることが出来、これも一つの思い出としていい経験になっています。

私たちはこの児童文化研究サークルの活動を通して、子どもたちの目線に立ち物事を考えること、また、社会において必要な報告・連絡・相談の大切さを学びました。この経験は、これから保育の現場で活かし続け、子どもたちの豊かな心を育てていきたいです。

### 卒業生の紹介

#### 『サークル活動を活かして』

保育科49期卒業 崎間 睦子(普天間高校卒業)  
勤務先:社会福祉法人 愛和保育園

私は、在学中「児童文化研究サークル」に所属し、積極的に活動に参加しました。公演日程が決まると、昼食時間や放課後も残って練習に励みました。メンバーとの時間を共有することで自然と気持ちが団結し、絆が深まりました。そして、その努力を本番で発揮できた時の達成感は、今でも忘れません。

引っ込み思案だった私でしたが、公演での司会経験を通して、堂々と人前で物怖じせず話しができるようになりました。その経験は、今の職場でクラス担任としてや行事等での司会で活かすことができ、

自信にも繋がっています。また、誕生会やクリスマス会では、OGの先生方と協力して新たに人形劇を作ったり、色々なアイデアを出しながら作品作りにも挑戦しています。

今の私があるのも、サークル活動での様々な経験があったからだと思います。目標に向かって進む力と苦悩を乗り越える力、そして何より、仲間との絆を得られました。在学生のみなさん、サークルでしか学べない事も沢山あります。それを探しに、まずはサークル室を覗いてみて下さい。



崎間さん(前から2列目、右から2番目)



食育をテーマとした新作「グリーンマントのピーマンマン」

「学内NGO」

ONE LOVE は、無限大の可能性と熱い愛で世界を変える！ 英語コミュニケーション学科3年次 岸本 佳子

ONE LOVEは、大学の授業で世界で起きている戦争、貧困、格差問題について知り、平和な世界をつくるために何かできないかと考えたメンバーが集まり結成されました。私たちが目指していることは、無限大の愛と可能性で世界を変えること、そしてPeace&Fairな世界を作るために活動することです。

現在中心としている活動は、「フィリピン・フレンドシップ・プロジェクト」です。2006年9月、私たちはフィリピン・マニラ市・トンド地区にある線路沿いのスラム街を訪れ、自立のために活動している若者たちに会いました。

彼らの手作りのストラップと、おはしケースを県内で販売し、売り上げの9割が彼らの活動資金となります。また、県内の小中高では、フィリピンを通して見える世界の現状を伝え、何ができるか共に考える参加型の授業を行っています。

1人ひとりの力は小さいけれど、同じ愛を持った人々の輪が広がれば可能性も無限に広がります。そして、あなたのその小さな1歩は、多くの幸せとなり、平和な未来へと繋がっています・・・☆

ONE LOVE ホームページ開設しました

<http://www.onelove-okinawa.com>



ONE LOVE メンバーです。

キリ学大NGO 比貧困層を支援

**フェアトレードで商品製造依頼**

**「お金より自立手段」**

提供：沖縄タイムス 2007年(平成19年)10月20日(土) 夕刊

提供：沖縄タイムス 2007年(平成19年)10月20日(土) 夕刊



割箸使用を減らすため、学内でおはしの貸し出し「おはし Project」活動中

『地域交流』

西原町民文化講座 講師派遣

本学から4名の教員が派遣されました。

西原町民文化講座(場所:西原町立図書館)

[前期] 2007年6月~10月 毎月第2木曜日 5回講座

第2回 7/12	沖縄キリスト教短期大学 英語科講師 柳田 正豪	カウンセリングにチャレンジ
第4回 9/13	沖縄キリスト教短期大学 非常勤講師 山里 米子	楽しい英語で始めよう国際理解

[後期] 2007年11月~2008年3月 毎月第2木曜日 5回講座

第2回 12/13	沖縄キリスト教短期大学 人文学部英語コミュニケーション学科 准教授 本浜 秀彦	沖縄の近代文学を読む
第4回 2/14	沖縄キリスト教短期大学 保育科 准教授 喜舎場 勤子	地域の教育力

中学生職場体験学習受入

西原中学校2年生5名が2007年7月2日~7月6日の5日間にわたり、本学で「職場体験学習」を行いました。



体験授業「日本語表現法」



事務局の仕事体験

人事一覽 (2007年4月1日~2008年3月31日)

部署長等(任期2007年4月1日~2009年3月31日)

短期大学部長	川西 康裕
宗教部長	金 永秀
入試部長	上原 明子
教学部長	山里 恵子
キャリア開発部長	高崎 正名
図書館長	大城 宜武
英語コミュニケーション学科長	伊佐 雅子
保育科長	山城 真紀子
英語科長	作田 真由子
総合教育系主任	青野 和彦
国際平和文化交流センター長	新垣 誠

<人文学部英語コミュニケーション学科>

●採用(4月1日付)  
名嘉山 興武 特任教授

●退職(3月31日付)  
神山 繁實 教授(定年退職)  
Lyle E. Allison 教授(定年退職)  
福村 陽子 准教授(普通退職)

<短期大学>

●採用(4月1日付)  
内間 清晴 総合教育系教授  
張本 文昭 総合教育系准教授  
William T. Randall 英語科特任教授

●昇任(4月1日付)  
城間 仙子 英語科准教授  
青野 和彦 総合教育系准教授

<事務職員>

●採用(6月1日付)  
大城 芳野 事務局企画推進課

●異動(4月1日付)  
柳澤 千恵子 事務局企画推進課長、  
教育学部教務課長兼務(教育学部教務課長)  
外間 きみ子 教育学部教務課主任(図書館図書課主任)

●異動(9月1日付)  
與那原 馨 事務局総務課長(昇任 事務局総務課主任)  
友利 道明 図書館情報センター課長  
(昇任 情報センター課主任)  
金城 雄彦 キャリア開発部キャリア開発課長  
(昇任 キャリア開発課主任、課長代行)  
中田 竜次 教育学部学生課主任、課長代行  
(昇任 教育学部教務課書記)  
金城 繁正 事務局企画推進課主任  
(昇任 企画推進課書記)  
城間 勉 事務局企画推進課主任  
(教育学部学生課主任、課長代行)  
柳澤 千恵子 教育学部教務課長の兼務を解く  
仲間 末美 教育学部教務課長代行(主任)

●退職(1月31日付)  
外間 きみ子 教育学部教務課主任(普通退職)

●退職(3月31日付)  
柳澤 千恵子 企画推進課長(定年退職)  
津波古 きくえ 財務課長(定年退職)

役員人事(5月28日付)

評議員就任 川西 康裕  
評議員就任 與那原 馨

寄付感謝報告

\*寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

期間(2007年1月1日~12月31日まで)

個人(127件/¥3,291,280) 団体(33件/¥17,990,000) 合計(160件/21,281,280)

四年制大学			奨学金			国際交流			
父	母	1	10,000	企 業	6	450,000	教 職 員	1	20,000
一 般		1	100,000	団 体	1	100,000			
企 業		1	20,000	宗 教 団 体	2	200,000	五十周年記念事業資金		
宗 教		3	13,000	学 校 関 係 者	1	50,000	同窓/在学生	1	10,000
宗 教 団 体		5	335,000	教 職 員	40	445,000	一 般	2	1,000,000
教 職 員		14	70,000	同 窓 会	1	50,000	企 業	3	5,350,000
後 援 会		1	6,000,000	後 援 会	1	2,640,000	学 校 関 係 者	1	10,000
施設設備資金			学生会活動援助費			教 職 員	12	36,000	
父	母	5	38,000	沖縄キリスト教短期大学	1	300,000			
同窓/在学生		1	591,000	沖縄キリスト教短期大学	1	200,000			
企 業		1	1,000,000	高校生英語弁論					
団 体		2	30,000	企 業	4	100,000			
宗 教 団 体		2	65,000	その他					
学 校 関 係 者		2	173,280	教 職 員	16	241,000			
教 職 員		24	474,000						
そ の 他		1	10,000						
同 窓 会		1	1,150,000						



## 「海外ボランティア実習」 in Nepal

実習期間:2008年2月12日~2月22日



白く輝くヒマラヤの山々。神々しい子どもたちの笑顔。「ナマステ！」人々はとても人懐こく、裏表のない笑顔で微笑んでくれます。植民地にならずにすんだネパールでは、伝統的な文化が生きており、敬虔な人々は毎日の生活に深い祈りを捧げます。その陰で、カトマンズの街にはストリートチルドレンが溢れ、貧しい少女たちが人身売買や売買春の犠牲となる現実もあります。多くの貧しい地域同様、ネパールでも男の子が好まれる傾向にあり、女の子は捨てられて孤児になるケースも珍しくありません。

そんな子ども達の現状に心を痛めた一人の高校の先生がいました。彼の名は、ビシュヌ・パラジュリ。ヒンズー教の最も高い位に生れた彼は、キリスト教に改宗したため家を勘当されました。ストリートチルドレンと同じ生活をし、子ども達へのカウンセリングを続けていましたが、彼はついに教師を辞め、児童養護施設「モーニングスター・チルドレンズ・チャリティ」を設立しました。

この度、英語コミュニケーション学科の3・4年生14人が、「海外ボランティア実習」をビシュヌさんの施設でおこないました。この実習を終えると、学生たちは晴れて「国際ボランティア実務士」の資格を習得することになります。

毎日8時間の停電が続くネパール。慢性的なガソリン不足で、自家発電機も動きません。子ども達は暗闇の中、必死に目を凝らして宿題の文字を追います。停電続きでロウソクの値段も跳ね上がっています。一番安いお米を買ってきては、子ども達が米に混じった石を一つひとつ取り除きます。それでも食事中にガリッと石を噛む音。思わず顔を合わせて笑います。質素な食事を毎日子ども達と共にし、ネパールの習慣に従って学生たちも手で食べました。

学生たちは、実習のプロジェクトとして施設の物置を図書室に変えました。その本棚には、保育科の学生が作成し、英コミの同時通訳を学ぶ学生達が英訳を加えた絵本が並べられました。子ども達は大喜びでした。また、実習に参加した大部分の学生が、学内でNGO活動を展開するONE LOVEのメンバーであったため、これを機会に18歳以上の子ども達に作ってもらったビーズ細工を、沖縄で売って送金するプロジェクトも始動しました。売上げは、財政難の施設の運営資金と、今年高校を卒業する5人の進学費用にあてられます。



プロテスタント系キリスト教徒であるビシュヌさんや素敵な子ども達と、私たちの運命的な出会い。今回誕生したこの絆を、本学の国際交流事業を通して、これからも大切に育んでいきたいと思えます。

(文: 新垣 誠 人文学部准教授・国際平和文化交流センター長)

# 2007年度 アジア・フレンドシップ・キャンプ



## in 韓国

2008年2月26日～3月4日、学生10名と教職員2名で、宗教部主催の平和学習プログラムで韓国の地へ訪れた。日本と韓国が「近くて遠い国」と言われている理由は、両国との間に辛くて悲しい歴史が隠されているからだ。

今回このキャンプでは、青春時代に日本軍の性奴隷として慰安婦にされたハルモニ(おばあちゃん)たちが共同生活をするナナムの家への訪問や、日本大使館前で慰安婦問題の日本政府の対応に抗議をする水曜集会への参加、非武装地帯(DMZ)、36年続いた日本の植民地時代における独立運動(1909年～1945年)で多くの人々を苦しめた西大門刑務所、提岩里教会など、韓国や日本の歴史を知る上でとても重要な場所での視察見学を行なった。韓国と日本、そして沖縄。歴史を知ることが与えられた命の尊さを考えるきっかけになる。本当の和解、歴史、平和、信仰・・・韓国の地を訪ねることで、自らが歴史の一部であり過去の痛みや苦しみを意味づけ争いの無い未来へ向かうために何ができると問いかけることができた。国と人と歴史、文化の触れ合いが新しい自分との出会いとなり、この旅をとおして得た学びは一人一人のすばらしい財産になると思う。

ナナムの家のハルモニたち、職員の村山一兵氏、香隣教会の牧師先生はじめ信徒の方々、沖縄のために祈り、我々を温かく迎えてくださった皆様に心から感謝します。(文： 神山 真美 宗教部)

### ☆主なスケジュール☆

2/26(火)

- ・ソウルタワー見学
- ・安重根義士(伊藤博文暗殺)記念館見学

2/27(水)

- ・日本大使館前にて水曜集会に参加
- ・西大門刑務所見学

2/28(木)

- ・ナナムの家訪問、歴史館見学、交流

2/29(金)

- ・非武装地帯(DMZ)見学
- ・オドゥサン統一展望台見学  
(北朝鮮が一望できる展望台)
- ・貞洞劇場で韓国の能楽を視聴

3/1(土)

- ・独立運動記念式典(タブコル公園)に参加

3/2(日)

- ・香隣教会の聖日礼拝に主席
- ・教会の青年達との交流

3/3(月)

- ・提岩里教会見学
- ・民俗村見学

3/4(火)

- ・帰沖



朝鮮王朝時代の姿を今に伝える「景福宮(キョンボックン)」



「ナナムの家」のハルモニたちと